



▼第42回厚高祭特集

7月14日、15日の2日間で第42回厚高祭が開催されました。今年の学校祭テーマは「Passion〜燃え上げ、年に一度の厚高祭〜」です。生徒会の生徒が中心となり、企画・運営しました。新型コロナウイルス感染症の防止対策のため、一般公開は保護者2人までに限定しました。

生徒たちは、協力しながらクラス旗を作り、教室での展示やステージでクラスパフォーマンスなどを披露。公営塾と共演したバンド演奏もありました。

クラスパフォーマンス
(上から1年生、2年生、3年生)



考案したクラス旗



恒例のジンギスカン昼食

また、初日の昼食は、こぶしの湯あつま前広場にできたバーベキューハウスで、恒例の「あづまジンギスカン」に舌鼓を打ちました。今年も、コロナ禍で制約がある中での実施でしたが、創意工夫しながら取り組んだことは、生徒たちの記憶に残ります。

スマホの外的世界

よりみち通信



「よりみち学舎」は、厚真高校と地域が連携しながら放課後を利用して生徒が自ら目標を発見し、挑戦する公営塾です。

「スマホのゲームに飽きました」。ある日のよりみち学舎で一年生の男子生徒がつぶやいた一言です。

SNSの投稿を見たり、ゲームをしたり…空き時間にスマホを使用する生徒は数多くいます。流行りのゲームに熱中する姿に、よく飽きないものだと思っていた矢先、冒頭の一言が聞こえてきたのです。

高校生の心境をもう少し掘り下げてみようと思ってみると「実は私も…」という声次々に上がりました。さらに尋ねてみると「生徒会長になりたい」「イラストが描けるようになりたい」「自動車会社に就職したい」などさまざまな想いを語ってくれました。

よりみち学舎では、生徒たちのインスピレーションが湧くようにと、町内の農家さんを訪ねてお手伝いをしたり、イベントに運営者側として参加したり、初めて会う大人と対話したりするなど「実物を見る」「直接体験する」ことに取り組み始めています。

スマホの外に目を向け、普段の学校生活や日常ではできないような経験を積み重ねていく中で、自分の枠組みを広げ、本当にやりたいことに会い、それをかなえてほしいと願っています。 教育魅力化支援員 川嶋 圭



あつま田舎まつりでの一コマ